

## 「エラー・アンド・ラーン」

本日4月25日はJR 福知山線で脱線事故が起きてから20年という節目を迎え、朝から様々な報道がされておりました。改めて事故でお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りいたします。

当時のことは私もよく覚えており、各地で報道がなされたことも記憶しております。また、哲学者の森岡正博さんが「33個目の石」という書籍で私たちにとっての33個目の石とは？と、この件を自分事として取り上げていたことで様々なことも考えさせられました。

そして、あの頃から「ミスすること」についての捉え方が徐々に変化をしてきたのではないかと思います。今朝の新聞でも「ヒューマンエラーの考え方」として従来の考え方から変化をしてきていることが紹介されていました。

### 従来の考え方

- 1 不注意によって起きる
- 2 ミスは一部の人間にしか起こらない
- 3 厳しく罰すれば、違反やミスをしなくなる



### 新しい考え方

人は誰でもミスをするものであり、故意や怠惰などの悪質なケース以外は処分せず、自発的なミスの報告を促して再発防止に役立てる。

これまでは、「厳しく罰すれば、違反やミスはしなくなる」という考え方が私などの世代では主流であったと思いますし、自発性に任せたら怠惰になるだけではないか？という意見が多かったようにも思います。

あれから20年が経ち、教育現場でも「エラー・アンド・ラーン」という言葉が少しずつ使われるようになりました。昔は「トライ・アンド・エラー」と言って試行錯誤をしながら学んでいくということがよく言われていました。規則を自主的に守ることも大切ですが、状況による変化を自分で考え、主体的に物事を判断し、行動に移していく。そうです。主体性です。自分から出発をして、主体的に何かをやってみて失敗から学ぶこと。誰かに言われて自主的にやってみて、失敗をして学ぶこと。同じ失敗ではありますが、大きな違いがあります。ただ字も言葉も似ているので混乱してしまいます。主体性と自主性の違いは「やるべきことを決定するのが自分であるか、他者であるかが両者の明確な違いです」とありました。前者が主体性です。

例えば「宿題」です。先生から出された「宿題」をやるのは自主的な学習です。ところが自分から興味関心のあるものを調べたり、さらに学習をしたりするのは主体的な学習です。これからは自分で考え行動をする主体性が求められています。そういう意味でも「エラー・アンド・ラーン」ということが大切だと思います。学校は失敗をするところだとよく言われています。その失敗も自主的にやった行為の「失敗」か主体的にやった行為での「失敗」かで大きく異なるのではないのでしょうか？学校に通ってくる子どもたちはまだまだ成長段階の子どもたちです。自主的な活動を促す中で主体的な行動ができるよう、子どもたちの成長を「エラー・アンド・ラーン」していけるような学校を目指して行きたいものです。